

研修テーマ 「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫
～遊びの中にある資質・能力を読みとって～

< グループ協議 >

教諭班は、若手職員（1～3年目）、学年別、少人数保育、預かり保育の4グループに分かれ、研修を行った。新しく研修方法を変え、それぞれのグループに合った研修をした。

自己課題について話をしたり、次回の研修に向けての研修の仕方の確認をしたり、持ち寄る教材についても話し合った。助言者の園長先生にはグループ協議に入っていたいたり、御指導、御助言をいただいたりし、研修を深めていった。

< 若手職員 >

- ・ 自己の保育の引き出しが増えるよう、歌や手遊び、踊り等の教材を紹介し合ったり、保育を振り返り困っていることや悩んでいることを話し合ったりした。
- ・ 教材研究では、明日の保育につながる情報交換ができた。

★助言者の指導より★

3歳児

- ・ 子供自らやってみたいと心が動くよう、身近なものや子供の興味から遊びや表現につなげていく体験が大切である。
- ・ 製作遊びでは入園前の経験に差があるため、実態や発達に応じた経験ができるようにしたり、子供の心の動きを捉えたりしながら行っていく必要がある。
- ・ 教師との信頼関係を基盤に安心して動き出すようになるため、ありのままの姿を受けることが大切である。
- ・ 教師は親の次に会う大人であり、大切な存在である。教師自身が豊かな心を持ち、感じたことやワクワクすることを子供たちに伝えていくとよい。

4歳児

- ・ 4歳児の発達を知り、個人差を理解しながら子供と関わる必要がある。
- ・ 4歳児は興味の幅が広がったり、意欲や思いやりの気持ちをもてるようになってきたりするなど、心が成長する1年である。
- ・ 自分でできた喜びを味わえるよう関わっていくのが教師の仕事である。教師は子供と一緒に遊んで信頼関係を築き、安心できる存在になってほしい。
- ・ 自分の考えをもち、分からないことは周りの先輩に聞きながら仕事をするのが大切である。

5歳児

- ・ 今、自分がして楽しいことを5人くらいの友達と一緒に楽しめるようにしていく。
- ・ 教師とは、子供の成長を喜び、一緒に成長をしていく専門家である。子供と一緒にワクワク、ドキドキし、喜びを感じられるようにしていく。
- ・ 遊びに入れないうちに友達が何をしているのか知らせることも大切である。



< 学年別 >

- ・ 研修テーマに基づいた自己課題について話をした。次回の研究方法についての共通理解、持ち寄る教材の検討などをしたり、情報交換や日々の保育の悩みを話したり、明日の保育へつなげる話し合いをした。

★助言者の指導より★

3 歳児

- ・ 先生のこと好きになっているか。子供に寄り添い、興味のあることを探ったり、聞いたりして一人一人を理解していく。充実した保育をしても先生が大好きでないと子供は育たない。
- ・ 子供、保護者との信頼関係づくりが2学期につながっていく。
- ・ 非認知能力の積み重ねが年中、年長につながる。ささやかな発見を見つけて、温かい保育を心掛けてほしい。
- ・ まとめることを急がず、喧嘩も子供たちの話をまず聞く「整理役」となる先生の存在が大切である。

4 歳児

- ・ 新しい生活様式や気候などに合わせて当たり前を見直していき、経験させたいことは何かを考え、できないではなく、どうしたらできるのか園全体で考えることが求められている。
- ・ 4歳児は自分のことを進んでできるようになる。プロセスを大切にしながら、できない不安をできそうな気持ちに変えられるように教師がアプローチしていく。また、友達と一緒にやりたい気持ちも出てくる。ぶつかりながらも思いが伝えられるようさりげない支援が必要である。
- ・ 子供の始めたことには意味がある。保育に失敗はないため、自分なりに試しながら子供との心の距離を合わせ、今しかできない体験をしていけるようにしていくことが大切である。

5 歳児

- ・ リレーでは作戦を立てるときに写真を使って順番が見える化するなど、子供たちが話しやすい、伝えやすい援助の工夫を考えていく。
- ・ 小学校は思考を大切にしている。考える時間の保証をしたり、子供が考えたりすることを大切にしてほしい。
- ・ 片付け一つでも年齢によってねらうところが違う。5歳児は片付けのルールを知っているため、活動の見通しをもつことが大切である。その中で気持ちの折り合いをつけるなど、子供を知ると声の掛け方も変わってくる。
- ・ 資質・能力、10の姿などは5領域のねらい、内容がベースである。「主体的、対話的な深い学び」を大切にしながら保育していくことで、卒園時に10の姿が育ってくる。



< 少人数保育 >

- ・ 少人数保育カリキュラムについて話を聞いたり、協議をしたりした。協議の中では、自己課題を話したり情報交換をしたりした。また、次回の教材研究についても話し合った。

★助言者の指導より★

- ・ 一人一人の子供や保護者に丁寧に関われるなどの少人数学級、複式学級の良さを見つけてほしい。その反面、言葉による伝え合い、協同性が育みにくいなど難しいと感じることも多い。
- ・ 良いところに目を向け、良いところをたくさん保育に取り入れられるようにしていく。難しいことはそのままにせず、教師が対応策を考えていく必要がある。
- ・ 少人数でも「幼児期に育てたい力」の冊子を見て、保育をしてほしい。

< 預かり保育 >

- ・ 自己課題を話したり、預かり保育について情報交換したりした。また、次回の教材研究についての話し合いもした。

★助言者の指導より★

- ・ 子供たちの健康と安全を大切に、無理のない環境をつくる。体力的に無理のないように家庭的な雰囲気づくりをする。
- ・ 担任の先生との連携を大切にする。また、保育中に情報を取り入れたり、子供たちが家庭でどのように過ごしているかなど、情報交換をしたりしていくことが大切である。

